

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいなべ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三重県いなべ市員弁町畑新田五軒屋367-1
記入者名 (管理者)	高橋 房子
記入日	平成 20 年 6 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔で安心して落ち着いた生活が出来るように『笑顔と信頼』を理念として玄関入り口に掲げており、日々の暮らしをサポートしている	○	散歩などで地域の人達に挨拶して季節の話などする
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を共有しており、利用者ひとり一人に毎日声かけて孤独にならないよう見守り、信頼関係を築いて穏やかな日々を過ごしていける様取り組んでいる	○	ミーティングや申し送りなどでも、時々理念に触れ確認しあっている
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月家族への手紙として、ひとり一人の1ヶ月の状況や行事・写真・翌月の予定などホームの様子を報告している	○	家族の訪問時には、廊下に貼ってある日々の様子や職員の対応の説明をしている
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の方と散歩に行った時、挨拶を交わし立ち話をしたり、近くの方にはホームの畑や花壇作りを手伝って頂いたり、助言をしてもらっています。野菜を頂くこともあります	○	地域性もあり、なかなかホームの中には入って見えませんが、できる範囲で気軽に話したり声をかけられるよう心掛けている
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入っているが、重度の人が多く、参加できる状態ではないが、施設の催し物には回覧板で働きかけたり、声をかけて参加してもらっている	○	近隣の人と気軽に話し入居者の人を知ってもらえるように努力している。開設6年を過ぎ、地域の方からも折にふれ暖かい言葉を掛けて頂いている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	直接的な取り組みはないが、地域の研修や催しには、出来るだけ参加して情報交換をしている	○	地域支援にはなかなか余裕がないが見学や入所相談に訪れた人の話には真剣に聞き相談に応じている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が読んで理解し、分担して相談しながら記入している。毎年分担箇所を変えている	○	外部評価の結果は、ミーティングで報告、全員で話し合い・意見を出し合っています。毎年分担箇所を変えることにより全体の項目が分かるようにしていく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動や実態・状況・外部評価結果など説明し、質問・意見など聞き話し合いました	○	これまでの評価結果を踏まえ、現在の状況を説明し、意見を聞かせてもらう
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括支援センターなどの研修に参加して、他の人達にも伝達している	○	研修参加時、市職員の方や他の参加者と少しでも話をする機会を作り、サービス向上につなげていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県・市主催の研修に参加してホームで他の人達に伝達している	○	今後も続けていき必要な時には活かしていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや申し送りの時、日々の介護の中で、対応が虐待にならない様話し合い、防止に努めている	○	研修にも参加し、今後も続けていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書など説明し、同意を得ている。又、医療連携加算やホームでの生活なども細かく説明している	○ 利用者の方が安心して過ごせる生活の場であるよう心掛けている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	散歩、ドライブ、喫茶店、買い物など、外出の機会を作り、日勤者は利用者全員に1日1回以上は話しかける事とし、話をする機会を作るようにしている。	○ 態度の変化や言葉から利用者の思いを汲み取れるよう職員同士で話し合い、対応を考えている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームでの状況を書いた 家族への手紙を発行し、担当者が其々の様子を一言書いて、1ヶ月のバイタル、領収書なども一緒に送付している	○ 面会時に、利用者の様子、暮らしぶりを伝え、状況変化、問題の起きた時は報告、相談をしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族会を行い、話し合っている。訪問時には最近の様子や気になる事など説明したりして、家族と話をするようにしている	○ 玄関に苦情箱を設置し、管理者、担当者が処理にあたる。家族が話しやすい雰囲気になるよう心掛けている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回カンファレンスの場で、研修の伝達や意見・要望を話し合っ運営に反映させている	○ 運営者、管理者は職員の要望など聞く体制ができており、風とうしが良い
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事などで必要な時は人員を増やして対応したり、都合が悪くなった時は、話し合っ勤務交代をしている	○ 急用の時、都合の悪い時など、職員同士替わってもらえる繋がりが出来ている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は、利用者で紹介し、都合がつけば入社前にも顔をだしてもらっている。夜勤は利用者の状況を把握してから入ってもらっている	○ 1年以上職員の移動がなく馴染みの管理者、職員で支援している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で研修に参加している。カンファレンスで研修報告を行い、全員が把握できるようにしている	○ 今後も続けていき、介護がマンネリ化しないよう努めたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会などに参加し、他事業者・市職員と交流し、サービスの向上を目指している	○ 研修会などで知れた情報を元により良いサービスの向上に努める
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場の中で気軽に話し合える雰囲気である。各々ストレス発散の趣味があり、他の人に話している	○ 構造上、職員が利用者と離れて休憩は難しいが、用事があるときは自由に外出できる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	責任を持って働けるよう、各自利用者の担当、行事・ホーム内外の整備などの担当を決め、行っている	○ 年1回、健康診断を行い職員の健康管理をしている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態、不安な思いを出来る限り把握できるよう努めている。入所後の毎日の生活でも、会話などから生活暦、得意なことなどを聞き本人の思いに寄り添うことが出来るようにしている	○ 本人の態度や話の中で、何を求めているか、不安に思うことを受け止めるよう努めたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまで家族のおかれていた状況などを聞くことにより困っている事、不安、思いを理解し、信頼関係を築くよう努めている	○ 訪問時や電話で気軽に意見や要望を言って頂ける様な繋がりを築いていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に本人・家族の思い、状態を確認し、必要なサービスができるか検討している。困難な場合は他のサービスを紹介する	○	社協、在宅支援センター、他施設と連携して出来るだけ必要な支援が出来るようにしていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けたら見学に来てもらい、ホームの雰囲気や生活の様子を見てもらって、本人に安心感と納得して頂いて入居してもらっている	○	今まで使用してきた身の回り品、寝具、医療を持っていただき、落ち着いて暮らして頂ける様にしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日一緒に暮らすうちに、昔の知恵など教わったり、歌を教えてもらったりしている	○	昔の歌を教えてもらったり、調理の仕方を教えてもらっている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の情報共有に努め、家族と同じ様な思いで支援していることを伝える	○	職員がここでの家族のように和やかに接していく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告し、来訪時ご本人と家族の潤滑油になれるよう心掛けている	○	行事や日々の暮らしの写真、毎月の便りを送り、施設での生活ぶりを知らせている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の利用など、本人を支えてきた人達との関係が途切れないよう大切にしている	○	家族や友達など、依頼があれば近くの駅まで送迎している
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間に、職員も一緒に会話しながら利用者同士の関係がスムーズになるよう働きかける	○	モヤシのひげとりや皮むきなど、仲良く話をしながら手伝ってもらっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方へのお見舞い、他施設へ替わられた方の面会などを行っている	○	ホームでの生活を説明し、移転先での生活に早く慣れるようにしていく
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症だからと決め付けるのではなく、職員全員が言葉や表情などから何をしたいのかを把握しようと努めている	○	職員は利用者全員に話しかけ、表情の変化などで体調などに気をつけている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、今までの生活の様子などを聞き、家族の方にも機会を見つけ少しずつ聞いたりしている	○	家族とも気軽に、お互いの思いを伝えられるよう心掛ける
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解し、行動や動作から利用者を総合的に見つめる目を養うように努める	○	朝夕の申し送り、連絡ノートを利用し職員全員で情報を共有する
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりを通し、職員全員で意見交換カンファレンスを行う	○	カンファレンスの時などに意見・アイデアを全員で出し合う
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスの中で利用者の状態変化に応じてケアプランの見直しを行い、柔軟かつ臨機応変な対応をする	○	カンファレンスの時などに意見・アイデアを全員で出し合う

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ページに3日分記入できる介護記録、1か月分のケアプラン実施表があり、一人一人詳細に記入、確認するようになっている	○	個別ファイルで何時でも全ての職員が確認できる
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況変化に応じ、その都度家族と相談している。家族や友人の面会など必要に応じて駅まで送迎している	○	家族や友達など、依頼があれば近くの駅まで送迎している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心してホームで暮らせるよう防災訓練の実施や文化センターでの催しに出かけたり、ボランティアの方々に来て頂いて、琴・サキソフォンの演奏して頂いている	○	年2回の防災訓練を行っていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2～3ヶ月に1度訪問理容をお願いしている	○	社協、在宅支援センター、他施設と連携して出来るだけ必要な支援が出来るようにしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の研修が月1回あり、勉強や相談の場がある	○	必要な時はいつでも地域包括支援センターに相談、支持を受けることができる
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度訪問診療と週1回の訪問看護がある。本人・家族希望の病院へは家族が通院介助している	○	緊急時及び他科受診の必要があるとき、家族の都合が悪い時は職員が通院介助をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>日常の利用者の姿を把握し、適切な支持や助言をしてもらう</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>疑問や相談事が気軽に出来、何かある時はいつでも連絡が取れる体制になっている</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院時には本人の支援方法に関する情報を提供し、医療、看護に役立ててもらおう</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族、かかりつけ医、看護師と連携し、介護していく</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家族、かかりつけ医、看護師と連携し、介護していく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないよう、配慮する</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーを損ねることのない様、ひとり一人に応じた対応をしている	○ 記録、個人情報などは事務所に保管されている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけをし、表情を読み取り、利用者の希望に添えるよう支援している	○ 一人一人の訴えを理解して各々にあつた対応を心掛けている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日に生活は自由にさせていただき、其々のペースで過ごして頂いている	○ 居室でゆっくり過ごされる方、食堂でテレビを見たり、お話されたり自由に過ごされている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	2～3ヶ月に1度訪問理容に来て頂き、本人の希望に応じた理容をして頂いている	○ 介護度の高い人が多く、訪問理容に来ていただいている。拒否される人は後日再度来ていただく
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事をしており、簡単な下ごしらえなど手伝っていただきながら其々の好みを聞いたりして皆で一緒に楽しく食事している	○ 利用者の状態にあわせ、皮むきや、すじとりなど出来る事を、話をしながら手伝ってもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	色々の飲み物を用意しており、本人の好みに合わせている	○ 各々の好みに合わせ嫌いなものは代わりの物を準備している。嚥下困難な人は、その人にあわせミキサー食、粥、キザミ食など準備している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えない人も、昼間はリハビリパンツにし、トイレ誘導をしている。職員は一人一人の排泄パターンを把握している	○	出来るだけオムツを当てないよう努力していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	余り入りたがらない方は、週3回入っていただいているが、お風呂の好きな人は毎日入浴して頂いている	○	希望があれば出来る限り希望の時間に入っていただく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない方には一緒にお茶を飲んで話をしたり、テレビを見たりして安心して頂けるよう心掛けている。昼間は利用者により横になる時間を作っている	○	19時頃に水分補給を兼ねて、飲み物と少量のお菓子を出してゆったりとした気持ちで休んでいただくようにしている
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえよう出来る仕事をお願いしている。又、レクや外出など気分転換を図るようにしている	○	介護度が違う為、全員一緒には難しいが喫茶店や散歩、レク等同じことが出来なくても一緒にいて孤独にならない様配慮している
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐにお金のおき場所が分からなくなりラブルになる為、殆どの人は持っていないが、お小遣い程度持っている人は希望時に買い物に出かけたりしている	○	お金を持っていないと不安な人には、小遣い程度持ってもらっている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日には外気浴、散歩、ドライブなどに行く。喫茶店や買い物、季節の花、市民センター等のイベントに出かけている	○	出来るだけ外に出る機会を多くするよう心掛けている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族には、外出。外泊は自由であること、特に盆・正月には少しの時間でもいいので家に連れて行ってもらえるよう話すが、余り実現できていない	○	可能な人は、少しの時間でも家に帰る機会を作ってもらよう話していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話して、自由に話をして頂いている。入所時に家族にも了解を頂いている	○	家族や知人からの電話はいつでも大歓迎ですと話し、どんどん掛けていただく様お願いしている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食事時間と夜間は出来るだけ避けていただいているが訪問は利用者の一番の喜びであり、時間に関係なく気軽に訪ねていただき、お茶を出してゆっくりとして頂けるようにしている	○	都合のいい時間に来て頂けるよう面会時間は特に設けていない
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを職員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している	○	今後も身体拘束のないケアを実践していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊して出て行かれる方があるので、玄関は鍵をかけているが外に出たい希望があればいつでも開けて見守りしている。ベランダはいつでも出られるようになっており芝生や畑に出て道路に出られることもある	○	近所の人とも顔なじみになり、出かけても暖かく声をかけてもらっている。外気浴してもらっているときや、徘徊される方が散歩に出ている時は玄関を開けている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、事務や作業を行いながら、さりげなく全員の状況や行動を把握するよう努めている	○	姿が見えない人はさりげなく巡回して所在や様子を把握している
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所内で管理されている。洗剤や刃物などの注意が必要な物は管理場所を決めて実行している	○	隠すばかりではなく台所に入っていくときは目を離さず、一緒にいるかさりげなく他に移動させる
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合、事故報告書を作成、気がついたことは全員で話し合い今後の対策につなげている	○	月1回カンファレンス時に全員が集まり話し合っている。それ以外でも日常的に出勤者で話し合っって連絡帳で全員に分かるようにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が応急手当の研修を受けており消防署の協力を得てホームないでも実施している。18年度より桑名市主催の応急手当普及員講習会にも順に参加している	○	総ての職員が対応できるよう今後も続けていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練、防災訓練などを行っている	○	消防署と相談し、今後も訓練を行っていく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族への手紙や面会時などで状況や対応を説明、相談している	○	現状を隠すことなく話し、家族にも現状を分かってもらおうようにしている。その上で対応策を相談、せつめいしている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い、食欲や顔色・状態に変化があるときは記録し、朝夕の申し送りをきちんとするなど職員間で共有し、対応にあたる。週1回、訪問看護師による状態チェックも行っている	○	訪問看護師とも情報を密にしていける。利用者全員に声を掛けることにより状況変化を見逃さないようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう、ケース毎に整理し、服薬時にはきちんと服用できているか確認している	○	薬の処方や用量が変更になった場合は、申し送りや連絡帳などで全員に分かるようにしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、野菜を多く使うようにし、おやつに牛乳を使うようにしている。又出来るだけ水分を多く取るよう働きかけている。水分を嫌がる人には、果物、ゼリー、プリンなど工夫している	○	出来るだけ薬に頼らず散歩や体を動かす機会を設けて、自然排便を促すように努力していく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯の洗浄、歯磨きの声かけ、介助をしている	○	就寝前には、義歯の洗浄、口腔内に残渣物が残っていないかチェックする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに心掛けている。利用者一人ひとりの摂取量は毎回チェックし、職員全員が把握している	○ 嫌いなものを食べない人には代わりの物を出して食べられるように工夫している。飲み込みの悪い人にはミキサー食、ポカリゼリー、お茶ゼリーを出している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を利用者、職員全員が受けている。感染流行時の対応を全職員周知し、予防している。情報収集にも努め全員で対策を話し合う	○ 常に布団、毛布など日光干し、居室の換気、掃除をこまめにし清潔に心掛けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の賞味期限を確認し、新鮮な物を使うようにしている。残りの点検も行い置き場所を分けて前の物を先に使うようにしている	○ 調理器具、毎日使う食器など台所の衛生を保つよう掃除、消毒をしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を上、明るい雰囲気づくりをしている	○ 花壇、プランター、ベンチなど配置し、入りやすい工夫をしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、台所の仕切りがなく食事の準備をしている様子が見え、匂いがしてくる。職員からばかりでなく利用者からも職員が何をしているか分かり安心感を与えている	○ 居間や廊下の壁に折り紙などで季節感のある物を作り、貼ってある。又写真を貼って、その時の事を思い出してもらおうようにしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、居間にはソファーや長いす、畳の間があり、自由に好きな所で過ごしたり、おしゃべりしたりされている	○ 気のあった人同士、ソファに座って話をされお気に入りの場所になっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者の使い慣れた物を持ってきてもらっている	○	本人の使い慣れた物を持ってきてもらい、出来るだけ季節の変わり目には家族と本人で、寝具や衣類の入れ替えをしていただくよう声かけしている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に換気扇があり、常に換気されている。毎朝利用者の起床後、居室の窓を開け空気の入替えを行っている	○	エアコンは利用者の訴えを聞き様子を見ながら調節し、換気扇・空気清浄機・消臭剤などを使っている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、身体機能を維持する為、歩行器など、個人の状況に合わせて取り入れている	○	廊下は広くゆったりと行き交える。床材にクッション製のある材料が使用されているので、転倒・ケガを小さくする配慮がしてある
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前に、本人の習字、塗り絵などを貼り、トイレ、居室の名札も分かりやすくしてある。	○	分からない時はその都度、声かけ誘導している
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭の芝生にはテーブルと椅子があり、気候のいい時には食事やおやつを食べ、気分転換を図っている	○	外気浴しながら歌を歌ったり、話をしたりして楽しんでいる。今年は芝生側にエンドウを作り、収穫・すじとりをしてもらって、楽しく食事しました

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活でストレスをためない様、出来るだけ元気で生き生きと生活して頂けるよう、玄関前に季節の花を多くベンチを設置して、外気浴・花見・おしゃべり・歌などしています。田園の中なので散歩に出ると季節の野菜・花などが見られ、近所には馬がいて毎日道路を歩いている姿も見られ、喜ばれています。又、ドライブや喫茶店などにも出かけ、外に出る機会を多くするよう努力しています。そのせいか冬に風邪をひかれる方が殆んどありません。外にいと利用者の知り合いの方が通りがかりに立ち寄ってくださることもあり、効果は大きいと思っています。もう1つ、毎日の介護の中で、その日の出勤者は各々利用者全員に1回以上は声を掛けることとしています。自分からは話されない方が置き去りにならない様、孤独にならない様に職員全員で心掛けています。